

# 長崎北病院 伝言板 1月号

令和4年1月1日発行

新しき年、寅（とら）年。勇猛果敢な印象があるがネコ科。神経質、子煩悩、狭いところが好き、マイペースなど。「どんな年になるか」ではなく「こんな年にしたい」。虎の尾を踏まぬように注意して騎虎の勢いかつマイペースで。今年もよろしくお願い致します。



## 「絶対大丈夫！」

2022年。穏やかな日々は束の間。オミクロン株襲来。コロナ後（アフターコロナ）の世界は見えず、さりとしてコロナと共存（ウィズコロナ）は願い下げ。当面は、コロナ弾に当たらぬよう準備怠りなく、避け続け、防御を固め続けるしかない。いつかはきっと。

昨年、ヤクルトスワローズが日本シリーズ制覇。日本一。長い間耐え忍び、日陰の存在だった熱烈なヤクルトファンの当院職員も優勝記念酒樽を注文したそうです。おめでとうございます。

一昨年は最下位。その前の年もビリ。昨年も圧倒的な下位予想だったチームが何故ビリから優勝できたのか。試合をするのは選手ですから選手が頑張った結果です。しかし、ビリだった昨年とメンバーはあまり変わっていないという。各々の選手が能力を伸ばしたのが大きいのでしょうか。さらに、意識改革。高津監督の「絶対大丈夫」が有名になりました。選手はマウンドに登るとき、バッターボックスに向かうとき「絶対大丈夫」と唱えて向かったそうです。不思議とうまくいく。魔法の言葉でした。しかし、この言葉の前にはおそらく「ちゃんと準備した者は」「日々努力してきたなら」「力はあるのだから」などが省略されているはず。力なき者、準備不足の選手が「絶対大丈夫」と唱えてもそれはただの



お祈り、効果はない。こうなりたい、こうしたいと頑張ってきた人がさらに飛躍するための魔法の言葉が「絶対大丈夫」。

今年もコロナはどうなるかわからない、病院もどういう影響を受けるか不明、医療制度や保険制度も変わっていく。病院や医療にとって楽な方向へ誰かが変えてくれる、世の中が変わることはない。しかし、「やるべき医療をきちんと続けていれば絶対大丈夫」、「正當に律儀に努力すれば絶対大丈夫」と思いたい。そう唱えながら仕事していく。



この2020年-2021年 当院は幸いにもコロナのクラスターも無く、何とか無事に仕事ことができました。幸いという言葉は職員の懸命の努力、患者さん、ご家族などの協力のおかげだと考えています。さて、2022年。今年も幸いを継続したい。しかし、日々の努力や挑戦の継続なくして幸いはやってこない。

現在 メジャーリーグ エンジェルスの大谷翔平選手。小さい頃野球の指導を受けた父親 徹さんとの「交換ノート」に繰り返し記された三つの言葉がある。1つ目は、「大きな声を出して、元気よくプレイする」。黙っていても意志や思いは伝わらない。大きな声でまずは挨拶、目を見て話す。確認する。ミスも減る。コミュニケーションの基本。そして元気な声や動きは自分を鼓舞し皆にも伝わる。広がっていく。2つ目は、「キャッチボールを一生懸命に練習する」。ただ投げるだけではない。自分の思ったところに投げられるか、どういう球を投げたいか、相手を取りやすいところに投げているか。いつも状況を把握し相手を思いやる。普段から気がけることで身につけていく。どんな時でも当たり前に行えるようになる。3つ目は、「一生懸命に走る」。休むとき、オフの時は思いっきり力を抜いて疲労やストレスの回復。しかしプレー中、仕事中は力を抜かない。取り組む姿勢。だらけた態度は全体に及ぶ。



私たちは野球選手ではないが同じ「プロフェッショナル」。3つの言葉は簡単そうだが難しい。まずは大きな声で挨拶、笑顔で元気よく仕事する。そうすれば「絶対大丈夫」(A.S.)